

安心して、ずっと住みたいまちづくり

牛久市総合防災訓練 を実施しました

11月23日に、「安心して、ずっと住みたいまちづくり」をスローガンに、総合防災訓練を行いました。

この訓練は、「茨城県南部を震源とする直下型地震が午前5時に発生し、牛久市では震度6強が記録された」という想定で、市と市民および関係機関など、約1200人が参加しました。

訓練は、各家庭や職場において、午前8時に市民が一斉に避難行動をとる初動訓練(シェイクアウト訓練)から始まりました。その後の訓練は、牛久南中学校で行われ、グラウンドに災害対策本部を設置、災害情報収集訓練、住民避難訓

練、避難所の開設・運営訓練、応急救護所の開設・運営訓練、倒壊家屋からの救出・救護訓練、負傷者の搬送訓練、消火訓練、炊き出し訓練、ライフライン復旧訓練などが冷たい小雨の降るなか、行われました。

訓練に参加した市民からは、訓練に参加したことによって、地域の防災力や地域の絆(きずな)が強くなったとの声が聞かれました。

牛久市では、今後も定期的に総合防災訓練を計画していきますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

■初動訓練

防災行政無線、かつばメール、牛久コミュニティFM放送による訓練開始の緊急地震速報を合図に、家庭や職場で一斉に机やテーブルの下に隠れ、からだを守る訓練。全市民を対象とし、日ごろの防災対策を確認する動機づけとします。

■災害対策本部設置

市職員が、牛久南中学校グ

ラウンドに災害対策本部を設置する訓練。

■災害要援護者安否確認

18行政区および2準行政区による災害時の要援護者の安否確認を実施する訓練。

■災害情報収集訓練

被害状況を把握するため、市職員、消防団や消防署の被害情報収集班が市内に出動し、無線で災害対策本部に被害状況を報告する訓練。

■住民避難訓練

向台、緑ヶ丘、女化西の3行政区および牛久ロイヤルレジデンス準行政区は徒歩で牛久南中学校へ、その他の行政区などは、一次避難所である区民会館などへ徒歩で避難する訓練。

■避難所の受付訓練

牛久南中学校体育館で避難者の避難所受付業務を実施する訓練。

■避難所の開設・運営訓練

牛久南中学校の体育館に避難所備品を設置し、避難所を開設する訓練。



災害情報収集訓練



住民避難訓練



避難所の受付訓練



避難所の開設・運営訓練



倒壊家屋からの救出・救護訓練



初動訓練



本部長
根本市長講評



負傷者の搬送訓練



トリアージ



応急救護所の開設・運営訓練



ライフライン復旧訓練



消火訓練



煙体験



炊き出し訓練

■倒壊家屋からの救出・救護訓練

牛久消防署特別救助隊が、倒壊家屋2棟から、閉じ込められた負傷者を救出する訓練。

■負傷者の搬送訓練

自主防災会と消防団が、救出された負傷者を担架で医療救護所まで搬送する訓練。

■応急救護所の開設・運営訓練

市が、テント内に応急救護

所を開設する訓練。

医師会牛久支部および牛久愛和総合病院・つくばセントラル病院の医師が、救出された負傷者のトリアージを行う訓練。

■消火訓練

消防団が、ポンプ車による水出し消火を行う訓練。

■ライフライン復旧訓練

県南水道企業団および県南管工事共同組合、東京電力株式会社竜ヶ崎支社、NTT東

日本茨城支店、東京ガス株式会社竜ヶ崎支社などの参加による、「水」「電気」「通信」「ガス」の復旧訓練。

■炊き出し訓練

陸上自衛隊隊員、各行政区および学校教職員、市職員が、900人分の豚汁やおにぎり、200人分の白玉ぜんざいの炊き出しを行う訓練、参加者全員で試食しました。
問 交通防災課 内線1681、1682

講 評

阪神淡路大震災、東日本大震災の教訓から、大規模災害では、公的機関からの支援には時間を要するため、頼りになるのは近所の人たちと自分自身です。「自分たちのまちは、自分たちで守る」という防災意識こそが大事です。

牛久市消防団

団長 山岡 恒夫



皆さんの旺盛な士気、機敏な行動を拝見させて頂いたとき、大変心強く感じました。災害発生の際には警察も皆さんと連携を図りながら迅速に対応してまいります。

茨城県牛久警察署

署長 橋本 康一郎



雨の中、ベビーカーを引いて訓練に参加された方もおり、皆さんの防災意識の高さに感動しました。安全安心は努力してこそ得られるものです。色々な災害が多発すると思いますが、事前の対策を怠らないことが大切です。この訓練を通して、反省点を教訓としてください。

防災システム研究所

所長 山村 武彦

